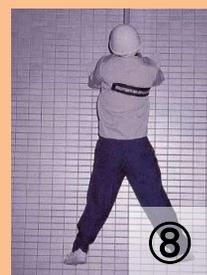


# 避難訓練Ⅳ（緩降機編）

## 「緩降機」の使用方法



- ①取付用アームを設定します。
- ②本体収納箱から器具を取り出します。
- ③フックを取付用アームの吊り輪に掛け、調整器を取り付けます。  
（この時、フックの安全環を確実に閉めてください。）
- ④降下空間と付近の安全を確認し、リールを投下します。  
（この時、ロープのねじれ、障害物がないか確認し、ロープの作動確認をします。）



- ⑤降下者は、ベルトを頭からかぶり、ねじれのないように脇の下に確実に装着します。  
（ベルトの調整環は、苦しくない程度に締めます。）
- ⑥ロープの緩みがないようにし、両手で調整器すぐ下のロープ「2本」を握ります。
- ⑦外に出て、窓枠やベランダなどに足を掛け、降下の姿勢をとります。
- ⑧両手をロープから離し、その手を建物の外壁に向けて軽く伸ばして降下します。  
（ベルトが抜ける恐れがあるので、腕は上に伸ばさないようにしてください）

### 緩降機のポイント

- 避難器具を含め消防用設備等は消防法令に基づく定期的な点検の義務があります。使用する避難器具が法令に基づく点検を受けているか確認しましょう。
- 取付用アームは、しっかりと固定されていることを確認してください。
- 降下中、体が回転することがありますので、手足でバランスを取ってください。
- この訓練は、高低差のある非常に危険な訓練となります。訓練を企画する場合には、専門家の立会いや指導を求めるとともに、安全を管理する担当者を決め、事故防止に努めましょう。
- 訓練時、降下者は抜けやすい服装を避け、ヘルメットをかぶり、手袋をしましょう。
- 訓練は、消防用設備等の点検日などに行うと効果的です。
- 使用後は、使用前の状態に戻して、以後の維持管理に努めてください。

